

会報  
第114号



みなさんと日本盲導犬協会を結ぶ会報です

# 盲導犬くらぶ

公益財団法人 日本盲導犬協会  
発行人 井上 幸彦

223-0056 横浜市港北区

新吉田町6001-9

TEL.045-590-1595

FAX.045-590-1599

<https://www.moudouken.net/>

## ちょっとしたお手伝いで 誰もが暮らしやすい社会へ



どんなお手伝いが  
できるのかな？

にちもう広報ちゃん

一緒に  
考えよう！



むすび

新動画サイト  
『にちもうジュニア』の  
キャラクター

スーパーで買い物をするユーザー清水明子さんと盲導犬ウーフ(マルエツ 板橋南町店にて)。  
トマト一つを選ぶにも種類はたくさん。スタッフの説明を聞いてどれにするか考えるのも楽しみの一つです。  
どのような配慮や工夫があると、目の見えない、見えにくい人が活動しやすくなるのか、一緒に考えませんか？

# 「視覚障害者を誰一人取り残さない」理想を掲げて更に一歩進みます

元日から能登半島が大地震に見舞われ、2024年は波乱の幕開けとなりました。被害に遭われたみなさまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興を祈念しております。

厳しい情勢が続く中ですが、協会は2023年度に35ユニットの盲導犬を送りだしました。今年度は、慶應義塾大学病院にてロービジョンの方への相談支援事業を行うほか、神奈川訓練センターの犬舎改築、広島訓練センターの立ち上げなど、新たな試みがいくつもあります。2021年に打ち出した中長期計画のSDGsの理念に沿って、着実に事業を進めて参ります。

かねてから「徳のある協会づくり」を掲げ、常に謙虚な姿勢で盲導犬育成への責任を果たすことを目指してきま

した。最近になって、古来日本では「徳」という字を「いきおい」とも読んだ、ということを知りました。確かに、物事には勢いが必要な時もあり、計画を入念にチェックしながら、ある程度のスピード感をもって実行していくことも求められます。まさにこれからの協会のあるべき姿が示されています。

「百尺竿頭一歩を進む」という中国の格言があります。百尺もある竿のてっぺんまで登って達成感を得たとしても、更なる高い理想を求めて、あと一歩進む。それによって持続可能な発展が期待できる、というものです。視覚障害者を誰一人取り残さない理想の社会を描きながら、役職員一同、「徳」を重んじて更に一歩進んで参ります。



公益財団法人  
日本盲導犬協会  
理事長  
井上幸彦

### 〈役員退任のお知らせ〉

12月31日付で岡見宏道さまが評議員を退任されました。長きにわたり協会運営にご尽力賜りましたことを心より感謝申し上げます

## 日本盲導犬協会の歩み

- 1月17日 ..... 第10回常任理事会
- 2月13日 ..... 第11回常任理事会
- 3月1日 ..... 島根あさひ訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 3月5日 ..... 第12回常任理事会
- 3月19日 ..... 第3回理事会



↑1月29日 山梨県市川三郷町の遠藤浩町長を訪問。盲導犬の医療費補助に感謝を述べ、盲導犬やユーザーへの理解促進をお願いしました



↑3月1日 島根あさひ訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」へ2022年度誕生の3組と支援者らが参加。ユーザーが喜びを語りました

←2月11日 浦和レッズ後援会のスチュワード（ボランティア）49人にスタジアム内での盲導犬ユーザー誘導方法をレクチャーしました

メディア掲載件数
テレビ・ラジオ 32回
新聞 56回
WEB 175回
その他(雑誌など) 17回

### 主な放送・掲載

12月30日	『ワーキングドッグ わたしたちの社会ではたらく犬たち』(福澤めぐみ編著、緑書房) 盲導犬関連ページに寄稿
1月12日	『岳南朝日新聞』 中高生対象に講習会「盲導犬ユーザーと共に社会について考える」を開催した件が掲載
1月15日	『通販生活 新春1・2月号』(カタログハウス)「舞台裏座談会 お仕事犬の巻」に多和田常任理事の談話掲載
1月17日	『テレリー東北他WEB5件』 青森県の八戸ポータルミュージアムでボランティアガイドに研修した件が掲載
2月2日	『中日新聞』 協会ユーザーと職員が愛知県常滑市の伊藤辰矢市長を訪問して盲導犬受け入れの促進を求めた件が掲載
2月8日	TOKYO FM『サステナ*デイズ』 協会職員が出演し、盲導犬育成事業の現状や盲導犬の役割について解説
2月15日	フジテレビ『めざまし8』 トロンボーン奏者の協会ユーザーと盲導犬の生活が紹介されました
2月12・16日	『福島民報』他WEB1件 福島市での宿泊・飲食・観光事業者向けセミナーで協会ユーザーと職員が登壇した件が掲載
2月20日	『読売新聞』他1紙 協会ユーザーと職員が愛知県春日井市の石黒直樹市長を訪問して盲導犬の実情を報告した件が掲載

\*協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

# TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

## 能登半島地震で被災した視覚障害者に寄り添う 協会職員が日本盲人福祉委員会の支援活動に参加

令和6年能登半島地震発生後の1月22～27日、社会福祉法人日本盲人福祉委員会(以下、日盲委)が行った石川県珠洲市と輪島市での災害支援活動に協会職員3人が参加しました。日盲委が、2011年の東日本大震災を機に、発災時に速やかに視覚障害リハビリテーションの専門家が現地支援を行えるよう体制を整えてきたものです。

今回参加した協会の視覚障害サポート部職員は避難所を訪ねてまわり、視覚障害者から「仮設風呂が設置されたがー

人では行けない」「室内の移動に気を遣う」「時間が把握しづらい」といった困りごとが聞かれたため、音声時計を渡すなどの対応を行ったほか、データや情報整理などの後方支援も担いました。

当事者の声を丁寧に聞きとり、必要となる支援を把握して現地の関連団体へつなぐなど、今後も継続的な支援が必要になります。協会は日盲委などと協力しながら引き続き支援活動に協力していきます。

## 4月から“合理的配慮の提供”が民間事業者の義務に 各方面への理解を求めて

4月1日、改正障害者差別解消法の施行により、これまで努力義務だった民間事業者による合理的配慮の提供が義務となりました。今後、事業者には人によって異なる障害の特性や困りごとに合わせた配慮が求められますが「盲導犬ユーザーへの具体的な対応方法が分からない」という相談も寄せられています。協会では、改正法の理解促進へ向けて活動の場を広げています。

1月29日と2月7日の2日間、一般社団法人福島市観光コンベンション協会と福島県の共催で「盲導犬ユーザー受け入れセミナー」が開催され、協会職員が講師を務めました。参加者は観光事業者63人で、宿泊施設、土産物店、飲食店、タクシーなど業種はさまざまです。盲導犬や視覚障害に関する基礎情報のほか、求められる合理的配慮の例を業種別に紹介しました。宿泊施設では部屋の中の物の配置を説明する、飲食店ではメニューを説明するなどです。「難しく考えずに、まずはひと言の声をかけを」と呼びかけました。

一方、未来を担う若年層など、民間事業者以外へ向けた

理解促進活動も引き続き行っています。1月16日、盲導犬ユーザーが静岡県立磐田北高等学校を訪問し、視覚障害者の就労をテーマに1、2年生50人と合理的配慮についてグループディスカッションを実施。参加ユーザーは、就労での体験談や実際に受けた合理的配慮例を紹介しました。



←磐田北高校での講義の様子。生徒たちは、視覚障害者に対する合理的配慮について真剣に検討。どんな配慮や工夫があるのだろうかという問いかけに、ユーザーから直接話を聞きました

### ●各センター活動報告(1月～3月)

(2024年3月31日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハース	島根あさひ訓練センター
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	6回	1回	1回
	バビーレクチャー	26回	12回	4回
	バビーウォーキング修了式	2回	1回	0回
	ユーザーフォローアップ	44回	28回	23回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	12回	3回	4回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー	3回		
	短期リハビリテーション	0回	0回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	145回(154人)	316回(279人)	76回(111人)
	受け入れセミナー	10回	17回	10回
普及推進活動	小・中学生向け実演	31回	26回	19回
	講演・実演・募金活動・受け入れセミナー	62回	67回	74回

# 動画で楽しく盲導犬を学ぼう 小中学生向け動画サイト『にちもうジュニア』公開

協会では、未来を担う子供たちに盲導犬を通じて共生社会について考えてもらえるよう、小中学校での講演やオンライン授業を行ってきました。一層学びを深めてもらおうと、3月5日、新たに「盲導犬子ども向け動画サイト『にちもうジュニア』」を公開しました。

本Webサイトでは、子供たちが興味をもって自ら学んでいけるよう、盲導犬や視覚障害に関する基本的な情報や盲導犬ユーザーの暮らしなどを、10分程度に分かりやすくまとめた動画をいくつか提供しています。子供たちからの疑問にユーザーが答える場面もあります。教員や教



◀動画ではガイド役キャラクターが登場！「むすび」(左下)が子供の目線で疑問を投げかけ、「にちもう広報ちゃん」(右下)が分かりやすく解説します

『にちもうジュニア』  
こちらから▶



育関係者の方向けの動画も用意しました。子供たちの調べ学習、学校の授業、講演などの教育目的であれば、閲覧、映写、リンクなど自由に動画を活用できます。今後も定期的に新しい動画を掲載していく予定です。

## 知って、理解して、 誰もがHappyな社会へ

### 盲導犬 基本のキ No.2

#### 角、段差を教える

盲導犬の基本の3つの仕事のうち、今回は「障害物をよける」がテーマでした。今回は「角を教える」と「段差を教える」を紹介します。

角ってなんだと思いますか？角とは、交差点のような道の曲がり角のことを指しています。盲導犬は、角を見つけたらゆっくりと壁に沿って歩き、斜め向きで止まります。目的地まで移動する時、一つ目の角を左に曲がる、というように分岐点の情報は欠かせません。ユーザーが道順を迎るために、盲導犬は角を教える役割を担っているんです。

では、段差はどこにあるでしょう？「階段！」そう思ったみなさん、正

解です。でも、階段だけではありません。大きな通りでは、歩道と車道が分けられ、歩道は車道よりも高くなっています。横断歩道との境目に、わずか数cmですが、段差があります。この小さな段差も、盲導犬は知らせているんです。上り段差では1段目に前足を乗せて、下り段差では段差の手前で止まります。止まる位置は段差の縁から5cm以内が目安で、ユーザーが足を安全に確認できる距離を考えて設定されています。転ばずに歩



↑左折する角では、犬の体の傾きに沿ってハーネスも左側に傾きます。この傾きによって、ユーザーは盲導犬が角で止まったのだと分かります

くために、また現在地を知る目印として、段差の情報が役立ちます。ユーザーは、犬が止まると「なぜ止まったのか」を分析します。足元の状況、周囲の音、ハーネスの傾きなど、すべてが分析の材料です。

目的地まで移動するために、盲導犬の教える「角」「段差」はユーザーにとって重要な手がかりとなっているのです。では次回もお楽しみに！



↑車道は事故の危険性が高い場所。横断歩道を渡る時は、盲導犬が段差で止まってからユーザーが段差を確認して発進するまで、一連の動作をスムーズに行うことが重要です

※育成団体によって、盲導犬による角の教え方などが違う場合もあります

# 盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

## 犬たちに教わる思いやりの心 共生社会を考えるきっかけに

仙台訓練センター  
引退犬飼育ボランティア  
キャリアチェンジ犬飼育ボランティア  
●高橋さん一家●(福島県岩瀬郡)



▶オリン(左)とダッシュ(右)と共に、左から長男の龍蔵さん、母親のさやかさん、長女のゆさりさん、父親の雄司さん。犬たちの生活は、大変なことよりも楽しいことのほうが大きいです。

**高**橋さん一家は、現在、盲導犬引退犬のオリンとキャリアチェンジ犬(以下、CC犬)のダッシュと暮らしています。もともと家の外で先住犬のギンを飼っていましたが、長男の龍蔵さんと長女のゆさりさんは、幼い頃から近所の薬局で盲導犬育成募金箱を目にしていたためか、盲導犬に興味を持つようになります。そんな子供たちの様子に、父親の雄司さんは家族で飼育ボランティアになることを提案。母親のさやかさんは当初、室内で飼うことは管理が大変そうとためらっていましたが、子供たちの強い意志に押され、気持ちに変化が。家族みんなで話し合いを重ね、犬を迎える決断をしました。

**1** 頭目は引退犬のオリン。オリンは落ち着いた犬で、すぐに



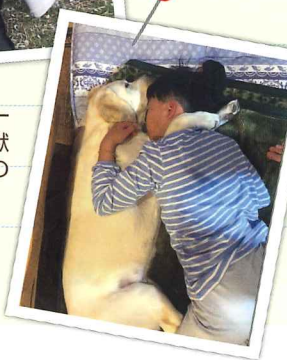
↑子供たちと犬たちはいつも一緒。ゆさりさんの将来の夢は獣医、龍蔵さんは盲導犬訓練士の仕事に魅せられています

▶子供たちは、リビングに布団を敷いて犬たちと同じ空間で寝るのが大好き

家族の生活に溶け込みました。家では静かにゆっくり過ごすのが好きな龍蔵さんは、オリンののんびりした性格と特に相性が抜群です。

**11** か月後に先住犬のギンが亡くなります。寂しい気持ちと同時に「オリンには友達がいれば良いのではないか」という思いが生まれ、もう1頭受け入れることにしました。

**2** 頭目は、ゆさりさんの「犬と一緒に遊びたい。元気な犬がいい」という希望もあり、CC犬のダッシュがやってきます。ダッシュは活発で、おもちゃ遊びや走り回ることが大好きです。でも、子供たちが悲しんで泣いている時には傍らで寄り添ったり、兄妹喧嘩の時には止めようとしているのか、間に入ろうとします。普段とは違う



**高**橋さん一家が犬との生活の中で心がけている大切なことの一つは、犬たちに嫌な思いをさせないように過ごすことだと言います。さやかさんは「犬は言葉はわからなくても心は通じています。兄妹喧嘩を見て犬たちはどう思っているのか、子供たちに想像してほしい。犬との生活から思いやりを学んで、優しさを身につけてくれたら」と願いを語ります。

**高**橋さん一家は、協会のイベントで視覚障害者と接したり、オリンの元ユーザーに会ったりしました。「盲導犬を通じて人との縁が一つできた」と話す雄司さん。子供たちからは時おり「今日は白杖を持っている人を見たよ」といった話題が出ます。「子供たちは、犬との生活を通じて無意識のうちに共生社会について考えているのだと思います。引退犬オリンとCC犬ダッシュは、家族の人生にとって大きな存在です。来てくれてありがとう」とほほ笑むさやかさん。高橋さん一家は、犬たちと共に未来へ向かっています。

スタートライン

# Start Line

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2024年2月までの共同訓練卒業生



- 各ユーザーの紹介項目
- ユーザー名・居住地(盲導犬歴)  
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種
- 1 共同訓練期間
  - 2 パビーウォーカー名
- 犬種記号
- LR: ラブラドル・レトリバー  
GR: ゴールデン・レトリバー

## 島根あさひ訓練センター

### スバルと歩いて視野が広がった 一緒に楽しむことで信頼関係を築く

この冬、初めて盲導犬ユーザーになった高橋さんは、自営の鍼灸院で働いています。話を聞いたのは休診日の午前中。パートナーのスバルと一緒に庭で遊んだ後でした。

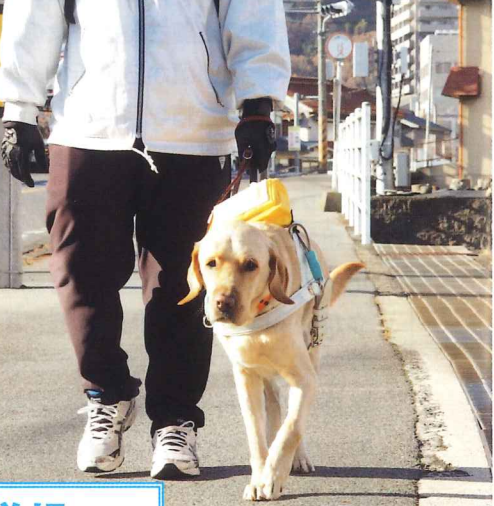
14年前、宿泊型の視覚障害リハビリテーションで当協会の島根あさひ訓練センターを訪れた高橋さん。点字や白杖歩行訓練などの講習を受けた後、盲導犬歩行を体験しました。その頃はまだ見えていたこともあり、体験だけで終わりました。その後仕事で10年間暮らした京都は、交通の便が良く道も整備されていたので、白杖があれば一人で歩くことができました。

盲導犬ユーザーになることを決意したのは、2年半程前に実家のある広島に戻ってきた後でした。視力の低下に加え、生活範囲には、道の両側が畑になっていて足を踏み外しやすいなど危険な所も多かったのです。白杖で安全に歩くのが難しいと感じた高橋さんは、盲導犬との共同訓練を受けること

にしました。

スバルとは、すでに体験歩行で2回ほど顔を合わせていました。人見知りな犬だと聞いていましたが、共同訓練初日、さっと高橋さんの足の間に入ってきました。夜には、床に座ってくつろぐ高橋さんの膝枕で寝てしまうほど慣れて、甘えん坊な一面を見せてくれたと言います。

共同訓練で歩いた地元、広島のお店や道は、昔とほとんど変わっていませんでした。見えていた頃の記憶もあるので、歩いている道がどこにつながるのかも分かります。ところが、共同訓練中、そんな道の途中でスバルがふと立ち止まりました。ごく普通の平坦な道のはずなのに、と思いつつ足を伸ばして確認すると、そこには下り階段が。スバルが、記憶と実際のずれを覚えてくれたのです。



**高橋 覚規さん**  
広島府中市 (1頭目)  
スバル (♂) LR  
① 2023.11.13 ~ 12.7  
② 有田 洋右さん

↑市内の盲導犬ユーザーは高橋さんだけ。時間がかかるかもしれないけれど、盲導犬が浸透して欲しいと、今日もスバルと歩きます

けています。

診療日の昼休みには、ドッグエデュケーション (以下、DE\*) と20分程の散歩をするのが定番。高橋さんは、安全な歩行には信頼関係が必要と考えていて、関係を築くために、DEを兼ねておもちゃで一緒に遊んだり、楽しい時間を一緒に過ごすようにしています。「スバルは楽しいみたいです。嫌がることはしたくないです」と高橋さん。

高橋さんは「失敗してもいいから、やってみよう!」と考えるタイプ。スバルが来て、やってみようという気持ちがさらに大きくなったと言います。スバルと一緒に泊りがけの旅行もしてみたいと楽しみが広がります。

↓高橋さんの足の間がお気に入り。取材中、スバルはイビキをかいてくつろいでいました



3頭目のジフィーは長い足と大きな耳がチャームポイント。角やドアを見つけるのが上手で、ビタッと止まった時「グッド!」とたくさん褒めると、しっぽがちぎれそうなくらいブンブン振って喜びます。街では、2頭目のヴォイスと歩いていたら声かけをしてくれている学生や近所の方とすっかり仲良しに。年齢的にジフィーが最後の盲導犬だと思うので、一緒にいろんなところに行って旅行を楽しみたいです

**岩谷 久美子さん** 島根県邑智郡 (3頭目)  
ジフィー (♂) LR  
① 2024.1.29 ~ 2.16 ② 飯野 悦光さん



**吉川 日出子さん**  
山梨県甲府市 (4頭目)  
ジャック (♂) LR  
① 2023.11.13 ~ 11.30

3頭目のシュガーが引退し、夫の盲導犬ジャックとタンDEM\*で歩くことになりました。ジャックのお世話は夫と分担。朝のお世話は私が担当しているので、自然とジャックも同じタイミングで起きるようになりました。外出の際、ジャックはいつも「こっちだよ」と自信満々で私をサポートしてくれるので安心して歩けます。これから一緒に新幹線や船、飛行機に乗って、いろいろな場所へ出かけていきたいです

**永沢 淳さん** 岩手県大船渡市 (3頭目)  
コナン (♂) LR  
① 2024.2.3 ~ 2.16 ② 上廣 耕治さん

リニューアルした「声かけパンフ」の配布にご協力ください!!

配布のご協力は、右のQRコードからアクセスまたは「盲導犬サポートSHOP」をご覧ください。

盲導犬総合支援センター  
https://goguideogs.jp/  
盲導犬サポートSHOP  
https://www.gomoudouken.net/  
みなさまからの応援は、補助犬育成及び障がい者の社会参加の支援活動に役立ちます。

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています

# わかさ生活

\* DE: てきたら「グッド」とほめることで、人とのコミュニケーションは楽しいと教える基本の訓練

\*タンDEM: 1頭の盲導犬を2人で使用する歩行方法

### 神奈川訓練センター

**川上 正信さん**

横浜市  
(3頭目)

**ファンタ (♂) GR**

①2024.1.8～2.13  
②四宮 真奈実さん



初めて経験するゴールデンとの歩行。どんな歩き方をするのか、じっくりいこうだろうか、最高のパートナーになれたらいいな…そんな不安と期待の入り混じった共同訓練でした。しかしファンタは堂々とした体形で、いつも私を見つけてくれて、その優しいまなざしに心打たれました。しっかりと歩きの中でも、ちょっと不安を醸し出す、そんな彼のしぐさにたまらないとおしさを感じています

**長根 智子さん**

埼玉県志木市  
(2頭目)

**マヒナ (♀) LR**

①2024.1.15～1.26  
②加内 朋子さん



マヒナは出会った時から甘えん坊さんで、人たらしの才能もあって周囲のみんなを魅了します。通勤ルートを歩くのがかなり難しいのですが、マヒナはコツコツとやる真面目な性格なのか？今日はこれができる、あれができたと一步一步着実に進歩しています。間違える日もありますが、周囲で助けてくれるみんなが「笑顔のかわいい子ですね」と褒めてくれます。家族の中でも会社でも、マヒナはすでにアイドル的地位を獲得しています

**井出 茂樹さん**

埼玉県坂戸市  
(3頭目)

**ネオ (♂) LR**

①2024.1.16～1.26  
②松永 往伯さん



最初ネオという名前を聞いてビックリ、タイムリーなことに共同訓練に入る前に見返していた映画『マトリックス』の主人公と同じ名前だったのです！対面してみると、小さくてかわいいルックスにギャップ萌え。訓練初日からダイナミックな甘え方をしてきて、パピーウォーカーさん宅で愛されてきたんだな～と実感。ネオの良いところを伸ばしながら、ゆっくり、力強く歩いていきたいです。映画のように、我が家のネオも救世主になってくれると思います

東京都庁にほど近い新宿副都心で、3頭目となる盲導犬イルとの生活が始まりました。高層ビルが乱立する自宅付近の風景に驚いているのでしょうか、イルはまだ少し戸惑っているようです。体重は30kgありどっしりしていますが繊細な面もあって、外で活動するより室内で過ごすほうが好きようです。とても落ち着いていて、のんびり屋なイルですが、少しずつこの環境に慣れていってもらえればと思っています



**丸山 茂徳さん 東京都新宿区(3頭目)**

**イル (♂) LR**

①2023.12.7～12.22 ②川畑 広子さん

心がふれあう

# Heart to Heart

視覚障害や盲導犬について理解を深め  
盲導犬ユーザーが生き生きと  
安心して暮らせる社会を目指して  
心のバリアフリーを広げる活動を紹介し

## 創立100周年。30年にわたって支援を 続けてきた横浜信用金庫の取り組み

- 創立70周年を迎え
- 盲導犬育成費用の寄付開始

横浜信用金庫は、横浜市内を中心に61店舗を構える金融機関です。地域に根差した信用金庫として、1923年の創立時から笑顔あふれる地域づくりを目指し、さまざまな社会貢献活動を行ってきました。

盲導犬育成や視覚障害者の支援を行うようになったのは、創立70周年を迎えた1993年のこと。社会貢献を検討する中、盲導犬の育成費用が1頭あたり数百万円に上ると聞き、同じ神奈川県に訓練センターを構えて活動していた日本盲導犬協会の趣意に賛同。寄付による支援をスタートさせました。この活動は現在まで続いています。

- 80周年に学校へ寄贈
- 『盲導犬クイールの一生』

支援は寄付にとどまりませんでした。2003年には、創立80周年記念事業として書籍『盲導犬クイールの一生』※を横浜市内の小中学校へ寄贈。



↑常勤理事・営業統括部長の野田淳嗣さん(中央左)、営業統括部・地域連携課の汐見孝さん(左)、目黒豊さん(中央右)、五味大輔さん(右)。地域連携課は3年前に設置。よりよい社会づくりに尽力中

野田淳嗣さん(現常勤理事)が地元の校長会に出席し、自らも各校を訪問するなどして市内370校へ計1,170冊を届けました。

その後、読書感想文コンクールを実施。表彰式には日本盲導犬協会も同席し、27人の受賞者とその家族を称えました。「誰もが住みよい街づくりに向けて、少しでも貢献できることがうれしいです」(野田さん)

- 新入職員研修に
- “盲導犬ユーザー接客”導入

創立100周年を控えた2022年から、新入職員研修の一環として視覚障害者や盲導犬ユーザーの受け入れ・接客セミナーを開催。「金融機関の窓口には、盲導犬を連れて来店されるお客様もいます。私たちに何が

できるかを考え、研修に取り入れることにしました」と語るのは、営業統括部・地域連携課の汐見孝さん。法規制や視覚障害の基礎知識をはじめ、声かけや手引きでの誘導など、具体的なサポート方法を研修に組み込んでいます。

新入職員からは「実際に視覚障害者の方や盲導犬と触れ合うことで、マニュアルからは得られない知識と支援の大切さが心に響きました」という声も上がっているといいます。



↑30年にわたって盲導犬とユーザーに優しい社会づくりをサポートしてきた横浜信用金庫。当協会から大前茂理事長に感謝状を贈りました

横浜信用金庫では、協会への支援について社内報やWebサイト等で情報を発信。社内外に理解が浸透するよう、広く呼びかけています。「人々が互いに支え合い、共に歩み、豊かな社会を築くために、微力ではありますが支援を続けていきたい。私たちはそう願っています」

協会への支援は今年で31年目を迎えます。横浜の街を、そしてそこに住む人を支える横浜信用金庫。思いやりと優しさにあふれるその取り組みは、これからも続いていきます。

※書籍『盲導犬クイールの一生』：当協会の多和田理事がかつて訓練士として盲導犬クイールを育成。本書は多和田氏とクイールをモデルに書かれた物語で2001年文藝春秋発行

# 2024年度 事業計画・収支予算

## 盲導犬育成事業

### 1 視覚障害者への歩行指導と盲導犬貸与

- ・35ユニットの盲導犬を育成
- 2 犬の飼育及び訓練
  - ・候補犬100頭を訓練
  - ・100頭の子犬を安定確保。国内外の協会や関係団体との連携を強化
  - ・健康理由によるキャリアチェンジ犬(CC犬)の減少
  - ・100頭をパピーウォーカー(PW)に委託、安全かつ健康にパピーを育成
  - ・16期目の島根あさひ盲導犬パピープログラムは3頭で実施。契約最終年度となるため今後の運用等について協議を進める
  - ・盲導犬の引退は30頭。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める
  - ・ケネル業務の質の向上と効率化
  - ・疾患を早期発見し、発病件数を軽減

### 3 盲導犬ユーザーへの

- フォローアップ(FU)
  - ・1年以内のアフターケアの充実を図りながら、年1回の定期FUを実施
  - ・歩行の安全性確保のための問題解決型FU、より快適な歩行のための課題解決型FUを実施

### 4 盲導犬訓練技術の向上

- ・新資格制度に則り目標設定を行い、OJTに取り組む
- ・拠点を跨いだ現任研修に取り組む

### 5 各種研修会への参加

- ・協会内外の各種研修会等への参加、自己研鑽、自主研究を奨励

### 6 犬舎・施設改修整備

- ・神奈川訓練センター医療繁殖棟、本犬舎改築完成を目指す

## 盲導犬歩行指導員等育成事業

### 1 有期契約職員として、協会が運営する訓練士学校の学生2名を採用

- 2 盲導犬准訓練士資格、盲導犬訓練士資格、盲導犬歩行指導員資格の取得に向け職員7名を養成

## 調査研究事業

### 1 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究継続及び疾患改善へ向けた調査

- 2 大学との研究協力・連携
  - ・東京大学との共同プロジェクトによる盲導犬ゲノムバンクの活用推進

## 視覚障害支援事業

### 1 盲導犬歩行についての理解促進

- ・視覚障害リハビリテーション施設・視覚支援学校・当事者団体向けの盲導犬体験歩行会を70回、盲導犬説明会を20回、当事者・

支援者向け盲導犬情報セミナーを4回、以上を開催

### 2 ユーザーコミュニケーション

- ・出発式や盲導犬6歳時コミュニケーション会を実施
- ・『パートナーズ』と『盲導犬通信』の発行、オンライン交流会を開催
- ・盲導犬ユーザーの満足度に関するアンケート調査を実施

### 3 視覚障害者在宅生活訓練

- ・全拠点で1,200コマの在宅訓練を実施

### 4 視覚障害リハビリテーション相談

- ・短期視覚障害リハビリテーション

- ・スマイルワン仙台で5回、神奈川訓練センターで2回開催

### 6 視覚障害児キャンプ

- ・スマイルワン仙台で開催

### 7 各種講習会の開催

- 8 関係団体との連携
  - ・視覚障害者の早期支援のため、慶應義塾大学病院内でコミュニティルームを稼働し、常設の中間型アウトリーチとして相談支援を開始

### 9 各種研修会への参加

- ・視覚障害者の早期支援のため、慶應義塾大学病院内でコミュニティルームを稼働し、常設の中間型アウトリーチとして相談支援を開始

### 9 各種研修会への参加

- ・視覚障害者の早期支援のため、慶應義塾大学病院内でコミュニティルームを稼働し、常設の中間型アウトリーチとして相談支援を開始

## 広報・普及推進事業

### 1 盲導犬や視覚障害の理解促進活動

- ・事業者等に対し視覚障害者への適切な情報提供や、移動支援、障害の捉え方についてセミナーを実施
- ・ユーザー在住地の首長訪問や行政との連携の際に、住みやすい街づくりへの協力を依頼

- ・大型商業施設や街頭等で盲導犬デモンストラーションを実施するほか、富士ハーネスで見学者を受け入れ、盲導犬事業への理解を促進
- ・病院・福祉施設等を訪問し、患者・入所者への動物介在活動を実施
- ・第30回チャリティゴルフ大会を開催

- 2 若年層への教育活動
  - ・小中学校を訪問し、盲導犬や視覚障害に関する正しい情報・知識を提供
  - ・教科書出版社への情報提供を行う

- 3 アドボカシー活動
  - ・盲導犬ユーザーから訴えのあった受け入れ拒否事例に対し、問題解決の対応を行う

- 4 広報
  - ・マスメディアでの広報活動
  - ・デジタルマーケティングを活用し、ホームページやWebコンテンツを拡充
  - ・児童、教育関係者向け新動画サイト『にちもうジュニア』で11本の動画を公開し、若年層の学びを促進
  - ・会報誌『盲導犬くらぶ』を年4回各5万部発行・発送

- 5 助成事業
  - ・白杖等の歩行訓練事業助成の募集を開始。歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる

- 6 その他
  - 1 未来構想推進(井上ビジョンの展開)
    - ・重要課題解決へ向けた調査及び研究開発を継続。東京大学盲導犬歩行学連携講座は6月末で終了
  - 2 人材育成
  - 3 協会ICTインフラの整備と活用
  - 4 危機管理体制の再構築

- 7 助成事業
  - ・白杖等の歩行訓練事業助成の募集を開始。歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる

- 8 その他
  - 1 未来構想推進(井上ビジョンの展開)
    - ・重要課題解決へ向けた調査及び研究開発を継続。東京大学盲導犬歩行学連携講座は6月末で終了
  - 2 人材育成
  - 3 協会ICTインフラの整備と活用
  - 4 危機管理体制の再構築

- 9 助成事業
  - ・白杖等の歩行訓練事業助成の募集を開始。歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる

## 2024年度予算

(単位:円)

科目	2024年度	前年度
1 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	25,500,000	20,000,000
受取会費	290,000,000	254,000,000
事業収益	31,400,000	31,880,000
受取補助金等	34,650,000	29,710,000
受取寄付金	1,103,350,000	1,094,290,000
雑収益	100,000	120,000
経常収益計	1,485,000,000	1,430,000,000
(2) 経常費用		
盲導犬育成事業費	535,120,000	464,714,000
盲導犬歩行指導員等育成事業費	41,240,000	46,430,000
調査研究事業費	15,310,000	23,250,000
視覚障害支援事業費	101,500,000	107,340,000
広報・普及推進事業費	246,990,000	233,640,000
国際事業費	8,410,000	10,980,000
訓練センター管理費	224,665,000	168,369,000
事業共通費(減価償却費等)	89,000,000	73,000,000
公益目的事業費計	1,262,235,000	1,127,723,000
法人管理費	222,765,000	302,277,000
経常費用計	1,485,000,000	1,430,000,000
当期経常増減額	0	0
2 固定資産等投資活動増減の部		
固定資産等投資活動収入	0	0
固定資産等投資活動支出	860,800,000	704,000,000
固定資産等投資活動増減額	△860,800,000	△704,000,000
当期増減差額	△860,800,000	△704,000,000

- ・学習資料や教科書掲載用に子供向け書籍を制作
- ・事業者を対象に受け入れ意識調査を実施し、データを活用した広報活動を展開
- ・情報管理の徹底とリスク管理体制の強化

## 国際事業

### 1 盲導犬の認定等

- ・海外等他団体の育成犬を盲導犬として認定し「盲導犬使用者証」を発行、及び海外からの旅行者への「期間限定証明書」の発行

### 2 国際的な協力関係

- ・国際盲導犬連盟(IGDF)への理事及び査察員の派遣

### 3 職員の研修派遣

- ・次世代の国際担当養成のため、海外の盲導犬育成団体に職員を派遣

## 関係団体協力事業

### 1 国内外各種盲導犬関連団体との連携強化

- 2 各種視覚障害リハビリテーション関連団体との連携強化

### 3 眼科医関連団体との連携強化

## 助成事業

- ・白杖等の歩行訓練事業助成の募集を開始。歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる

## その他

### 1 未来構想推進(井上ビジョンの展開)

- ・重要課題解決へ向けた調査及び研究開発を継続。東京大学盲導犬歩行学連携講座は6月末で終了

### 2 人材育成

### 3 協会ICTインフラの整備と活用

### 4 危機管理体制の再構築

# 生まれました

2024.1.10 誕生



オス 4頭  
メス 2頭  
父犬クルト(LR) ×  
母犬タノ(LR)

2024.2.2 誕生



オス 6頭  
父犬クルト(LR) ×  
母犬エステ(LR)

2024.2.13 誕生



オス 2頭  
メス 3頭  
父犬チャド(LR) ×  
母犬シェリー(LR)

# みなさんに 支えられて

12月11日~3月10日

犬種記号  
LR/ラブラドル・レトリバー  
GR/ゴールデン・レトリバー

## 引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ヴィジョン♂	丸山 茂徳さん	伊関 ゆりさん	2023.12.11
ワールド♂	川上 正信さん	調整中	2024.1.8
ミランダ♀	酒井 みどりさん	調整中	2024.1.10
サナ♀	長根 智子さん	安部 智子さん	2024.1.15
ロンド♂	井出 茂樹さん	橋之口 泰央さん	2024.1.16
ヴォイス♂	岩谷 久美子さん	調整中	2024.1.29
アシュリー♀	阿部 まりさん	-	2024.2.2
ムーラン♀	谷 龍三さん	東村 明人さん	2024.2.5

## 亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
ウィズ♂	小林 まさえさん	渡辺 基樹さん	2023.12.25
ソラ♀	佐藤 佳代子さん	坂本 和夫さん	2023.12.25
アイディー♀	中野 ナミ子さん	小林 賢一さん	2023.12.27
イーグル♂	堤 江美子さん	-	2024.1.12
ラミル♀	天野 正昭さん	伊藤 幸子さん	2024.1.27
ジャンヌ♀	三上 慎太郎さん 石川 留井子さん	熊谷 正男さん	2024.1.29
ケビン♂	野地 土栄さん	竹内 智さん	2024.2.4
レーヌ♀	加藤 千恵子さん	森本 年郎さん	2024.2.9
ショー♂	國弘 武さん	坂田 省吾さん	2024.2.13
マッチ♂	加藤 今日子さん	渡井 幸雄さん	2024.2.19
カトレ♂	天野 正昭さん	大塚 恒さん	2024.2.22
ライラ♀	小宮 祐子さん	川崎 豊さん	2024.2.29
ジングル♀	繁殖引退犬	堀江 智香子さん	2024.3.1
ターニャ♀	椎 カヨ子さん	尾形 富寿雄さん	2024.3.6

## 委託しました

父犬	母犬	子犬	子犬
父犬ウィンダム(LR) × 母犬ルカ(LR)	父犬モーガン(GR) × 母犬ローラ(GR)	ヴァディ♂	アロマ♂
青木 ゆみさん	戸田 祐二さん	大友 あゆみさん	アラタ♂
父犬ライオン(GR) × 母犬フェアリー(GR)	父犬クルト(LR) × 母犬タノ(LR)	ウォーレン♂	バル♂
宇都宮 房子さん	隈 美和さん	ウッディー♂	ヨソラ♂
友繁 文さん	宮本 エミさん	ワン♀	ヨナス♂
相原 基礼さん	本宮 透雄さん	ウィーゴ♂	ヨーク♂
川北 武範さん	佐藤 昭平さん	ウェンディー♀	ヨツパ♂
森永 和加子さん	丸橋 剛さん	父犬カーロ(LR) × 母犬デン(LR)	ヨル♀
	斉藤 浩子さん	バル♂	ヨッキー♀
		ベック♂	
		ピギン♂	
		ビスケ♀	
		ブーケ♀	
		ポンド♂	

## 盲導犬育成状況

合計頭数...702頭(2024年4月3日現在)

委託前パピー	5頭	繁殖犬	48頭
パピー	90頭	PR犬	13頭
訓練犬	75頭	引退犬	173頭
盲導犬	233頭	繁殖引退犬	65頭

みなさんと協会をつなぐ

# ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します



**盲** 導犬くらぶ112号で、協会の訓練士がアメリカの盲導犬協会を訪ねた話を興味深く読みました。日本では、ユーザーは盲導犬を左側に寄せて歩いています。そのアメリカの協会では堂々と歩道の真ん中を歩いているそうです。何と大らかな歩行スタイルでしょうか。私は16年間の盲導犬ライフを通じて「左に寄って」という指示をもっとも多く出しました。特に、狭い道では真ん中を歩いてしまわないように、いつも気を付けています。日本よりアメリカの歩道の幅はずっと広いでしょうから、日本と歩行スタイルが異なるのは頷けます。また、排泄の処理の仕方も大きく違うと聞いたことがあります。

このような情報をより多く知ることができたら、おもしろいなと思います。今後とも、日本と外国の盲導犬に関する比較などを展開していただければうれいです。

ユーザー大堀紀子さん&盲導犬ジャネットより

## 編集室より

『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先  
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室  
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F  
FAX:03-5452-1267  
e-mail: info@moudouken.net

●各訓練センター・事務所の電話受付時間が変わりました  
10:00 ~ 17:00  
●盲導犬の里富士ハーネスの開館時間が変わりました  
7月 ~ 11月 10:00 ~ 16:00  
12月 ~ 6月 平日:12:00 ~ 16:00  
土日祝日:10:00 ~ 16:00  
休館日 毎週水曜日、年末年始(12/28 ~ 1/3)

## 子供たちから 学びの報告が来ました

協会が行う普及推進活動の一つに「盲導犬小中学校キャラバン」があります。協会職員が実際に学校を訪ねて、子供たちに盲導犬や視覚障害について伝える催しです。子供たちからは「盲導犬が目的地まで導いているのではなく、ユーザーが頭に地図を思い浮かべ、盲導犬がきけんなものや階段などを知らせているということにおどろきました」など、たくさんのお便りが届いています。

私はとくに「びき体験が心に残っています。最初はちょっと怖いなと思いました。目が見えない人に話しかけるのはずかしかったけど、びき体験をしたことで話しかけてみよう」と勇気をもつきっかけになりました。私たちのために盲導犬のことを教えていただき本当にありがとうございました。いろいろなお知らせをありがとうございました。



子供たちが共生社会について考えを深められるよう、今後も幅広い活動に力を入れていきます



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ  
<http://www.intage.co.jp/>

Cue Monitor キューモニター募集  
<https://www.cue-monitor.jp/>



無理なく、続けられる

**ナチュラリープラス®**

The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラリープラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F  
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>